

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/09/01

9月FOMCに注目集まる

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	弾みがつけば年初来高値更新も視野 予想レンジ: 102.500 ~ 105.500 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	ダブルトップ形成の可能性も 予想レンジ: 94.200~97.500円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

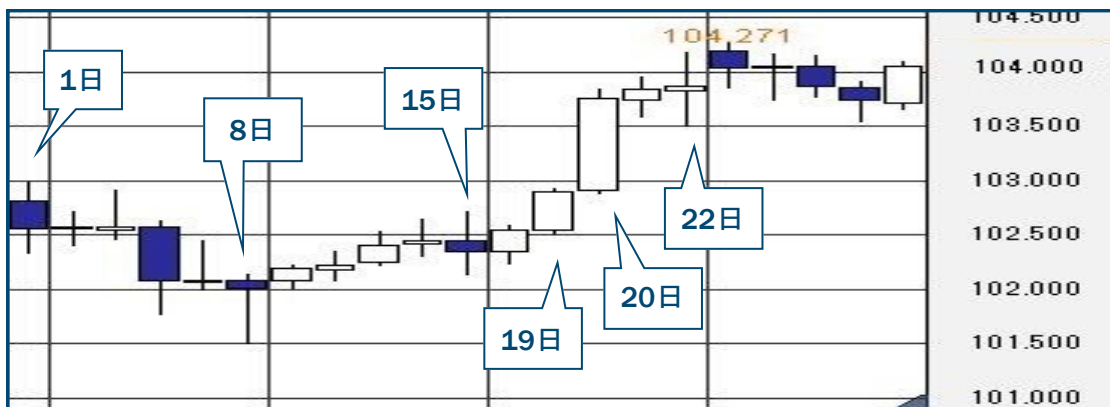
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 8月の推移

USD/JPY

8月のドル/円相場は101.513～104.271円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ドル高・円安)となった。4月の高値104.126円は突破したものの、それ以降の上昇が続かなかったことから、2月以降の100円台半ばから104.20円前後のレンジ相場は継続している印象だ。

月初は米7月雇用統計の結果が冴えない内容となった事、米国によるイラク空爆をオバマ米大統領が承認した事などを受けて軟調に推移したものの、101.50円前後での底堅さを確認すると、次第に主要国株価が堅調な中で切り返した。103.00円目前では上値の重さが見られていたが、20日に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が市場の予想よりもタカ派的であると判断された事、22日のジャクソンホールシンポジウムにおける米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の講演が「市場予想よりもハト派でなかった」と受け止められた事などが追い風になり、ドル高・円安に拍車がかかると、104.271円と、今年1月以来の高値を更新した。



四本値

OPEN	102.815
HIGH	104.271
LOW	101.513
CLOSE	104.058

1日	米7月雇用統計は失業率が6.2%(予想:6.1%)、非農業部門雇用者数が20.9万人増(同:23.0万人増)、平均時給が前月比±0.0%(同:+0.2%)と市場予想よりも弱い結果となった事を受けて、ドル/円は下落。米雇用統計を受けて米長期金利が低下した事も重石となり、102.339円まで値を下げた。
8日	オバマ米大統領がイラクへの空爆を承認した事が報じられると、リスク回避ムードが強まり、ドル/円は急落。一時101.513円まで値を下げた。ただし、NY市場に入ると、「ロシア政府はウクライナ紛争の緊張緩和に乗り出す意向を示した」と報じられた事もあり、下げ幅を圧縮した。
15日	「ウクライナ軍が越境してきたロシアの軍用車両を破壊した」と報じられた事を受けて米長期金利が2013年5月以来となる2.30%台まで低下するなどリスク回避ムードが急速に広がり、ドル/円は102.140円まで下落した。
19日	米7月住宅着工件数が109.3万件(市場予想:96.5万件)、米7月建設許可件数は105.2万件(同:100.0万件)と市場予想よりも強めの結果となった事から、ドル高が進行。NY市場の引けにかけて、102.90円前後まで上値を伸ばした。
20日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録は「多くのメンバーが労働市場は完全な正常化には程遠いと判断」「多くが雇用増で利上げが早まる可能性がある」と判断「一部のメンバーはフォワードガイダンスへの不満を強めている」「ほとんどのメンバーが下向きのインフレリスクが低下」「労働市場の余剰の度合いについてFOMCメンバーに意見の相違があり、多くが余剰労働力の文言を近く変更する必要がある」と指摘「メンバーは労働市場の最近の改善と1年間の累積進歩の双方が予想よりも大きく、労働市場が長期的に正常と見られる状況に著しく近づいた事で合意」「ただし、多くのメンバーは現在の労働市場の状況と労働利用の政情な水準の評価に引き続き大きな乖離があると判断」という内容になった。これを受けて早期利上げ観測が強まると、ドル/円は103.845円まで値を伸ばした。
22日	「ロシアの支援物資の車両がウクライナの許可なく越境」との報道を受け、ウクライナ情勢緊迫化が嫌気されると、ドル/円は103.503円まで下落。米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の講演を前にしたポジション調整の動きも重石となった。ただ、ウクライナ外務省が「挑発を避ける為、ロシア人道支援部隊の入国を許可した」との声明を発表したため、ドル/円は反発。その後、イエレンFRB議長はジャクソンホールシンポジウムで「FOMCは労働力の活用が極端に低いと判断」「目標への進展が早ければ利上げが早まる公算」「賃金はインフレの上昇を受けず上がる余地がある」などと発言すると、市場は予想ほどハト派的ではないと判断し、104.191円まで上昇した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.5295%
HIGH	0.5356%
LOW	0.3873%
CLOSE	0.4882%

米10年債利回

OPEN	2.5578%
HIGH	2.5871%
LOW	2.3011%
CLOSE	2.3431%

日経平均

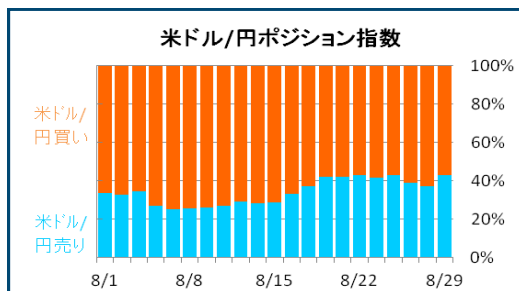
OPEN	15511.54
HIGH	15628.78
LOW	14753.84
CLOSE	15424.59

NYダウ平均

OPEN	16561.70
HIGH	17153.80
LOW	16333.78
CLOSE	17098.45

8月のポジション動向

9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・日銀金融政策決定会合(3-4日)
- ・米4-6月期GDP・確報値(26日)
- ・米8月雇用統計(5日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言
- ・日7月経常・貿易収支(8日)
- ・ウクライナ情勢
- ・日4-6月期GDP・二次速報(8日)
- ・イスラエル情勢
- ・米8月小売売上高(12日)
- ・日本の追加緩和に関する要人発言
- ・米FOMC(16-17日)

9月の見通し

8月下旬以降、ドル/円相場の上昇に拍車がかかったきっかけはFOMC議事録およびイエレンFRB議長の講演内容だったが、どちらにしてもタカ派色を一方向的に強める内容ではなかった。しかし、市場が「予想したよりはタカ派的であった」あるいは「予想したよりはハト派的でなかった」と、我田引水のな面が目立った中でのドル高という色が濃かった。その後のドル/円は、地政学的リスクという警戒感があったにせよ、4月高値を僅かに更新した時点で頭を打ってしまったのは、ドルを積極的に買うにはやや弱い地合いという面があったのではないかと見る。

しかし、その後に発表された米4-6月期国内総生産(GDP)・改定値はかなり強い内容だった他、他の経済指標も良好なものが目立つ。9月に発表される米8月雇用統計が強めの結果だったり、16-17日のFOMC声明が「市場予想よりもタカ派的であると看做され」たり、あるいは、その後のイエレンFRB議長の会見内容が「予想よりもハト派寄りでなかったと看做され」たりすれば、さらにドル高が進むと考えられる。勢いがつけば、年初来高値105.440円の更新も十分にあり得るだろう。

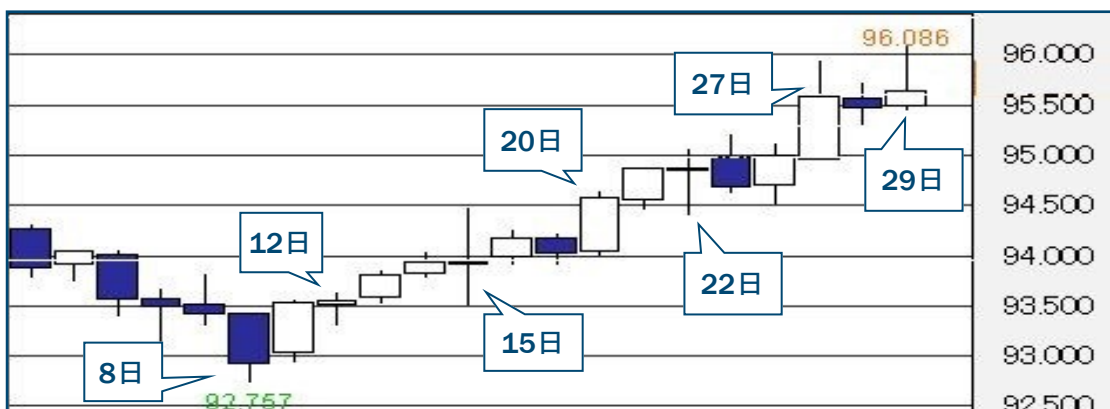
ただし、引き続き地政学的リスクに関わる報道には要注意だ。これらを受けて米長期金利が低下すれば、ドル/円の重石となり得る。特にウクライナ関連のリスク要因にはそうした傾向が依然見られるため、警戒したい。(石川)

(予想レンジ: 102.500~105.500円)

カナダ/円 8月の推移

CAD/JPY

8月のカナダ/円相場は92.757～96.086円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(カナダドル高・円安)となった。8月は、軟化して始まったNYダウ平均が持ち直して最終的には500ドル超上昇しており、これがカナダ/円の最大の上昇要因になったと言えるだろう。もちろん、7月雇用統計や4-6月期国内総生産(GDP)など、カナダ経済指標に好結果が目立った事も一因ではあろう。ただ、これらは米国に比べるとカナダの利上げ開始が遅れるとの大方の見方を覆すほどの強さではなく、8月のカナダドルはドルに対して小幅に軟化している。ウクライナ問題については、個別にみれば幾度か市場のリスク回避姿勢を強める場面もあったが、全体としては大きく意識される事はなかったと言える。



四本値

OPEN	94.274
HIGH	96.086
LOW	92.757
CLOSE	95.648

8日	オバマ米大統領がイラクへの空爆を許可した事が伝わると日経平均が急落し、カナダドル売り・円買いが強まった。その後、リスク回避ムードは後退したものの、加7月雇用統計で雇用者ネット変化が前月比0.02万人の増加に留まり予想(2.00万人増)を大きく下回ったためカナダドル売りが再燃し、92.757円の安値を付けた。なお、加7月失業率は7.0%と予想(7.1%)より良好であったが、労働参加率が65.9%と低水準に留まったため好材料と受け止められなかった。
12日	カナダ統計局が「8日に発表した7月雇用統計に誤りがあったとして、15日に修正値を公表する」と発表。雇用者ネット変化の上方修正期待から、カナダドル買いが優勢となった。
15日	加7月雇用統計の修正値は失業率は8日の発表値と変わらず7.0%、雇用者ネット変化は4.17万人増と大きく上方修正された。これを受けてカナダ/円は94.484円まで上昇したが、ウクライナが(ウクライナ領内に侵入した)ロシアの軍用車を攻撃したと報じられると、欧米株価の急落とともに93.523円まで一転して下落した。
20日	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録が早期利上げの可能性を示唆したとしてドル/円が上昇すると、カナダ/円も連れて上昇。議事録公表後に一時下落していたNYダウ平均が持ち直すと94.60円台まで上値を伸ばした。
22日	加7月消費者物価指数が前年比+2.1%、前月比-0.2%といずれも予想(+2.2%、-0.1%)を下回ると、一時94.40円台へと下落。しかし、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演が「ハト派色が薄かった」としてドル/円が上昇すると、カナダ/円もこれに連れて95円台を回復した。
27日	月末スポット応答日にあたるこの日のNY市場で、実需取引に絡むドル売り・カナダドル買いが観測されると、対円でもカナダドル高が進行し、95.937円まで上昇した。なお、前日に米バーガーキングがカナダのコーヒー・ドーナツチェーンであるティム・ホートンズの買収を発表した事が想起された模様。
29日	加4-6月期国内総生産(GDP)が前期比年率+3.1%と予想(+2.7%)を上回ったことからカナダドル買いが活発化して96.086円の高値を付けた。ただ、月末最終日のロンドンフィキシングに向けてドル買いが観測され、米ドル/カナダドルが上昇した影響を受けて失速した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	2.175%
HIGH	2.187%
LOW	1.979%
CLOSE	1.995%

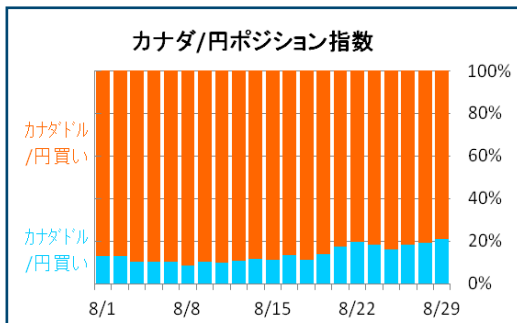
N Y 原油

OPEN	97.70
HIGH	98.67
LOW	92.50
CLOSE	95.96

NYダウ平均

OPEN	16561.70
HIGH	17153.80
LOW	16333.78
CLOSE	17098.45

8月のポジション動向



9月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・日銀金融政策決定会合(3-4日)
- ・カナダ中銀政策金利発表(3日)
- ・米8月雇用統計(5日)
- ・加8月雇用統計(5日)
- ・加8月住宅着工件数(9日)
- ・加8月消費者物価指数(19日)
- ・加8月小売売上高(23日)
- ・加7月GDP(30日)
- ・主要国株価
- ・原油価格
- ・ウクライナ・イラク情勢

9月の見通し

カナダ/円は7月3日に96.210円まで上昇したのち、8月8日にかけて92.757円まで下落したが、8月29日には96.086円まで持ち直した。このまま96.210円を突破できれば昨年12月31日高値の99.200円に向けた上昇が期待されるが、もしここで失速してしまえば、日足チャート上に下落のシグナルとされる「ダブルトップ」形成の可能性が高まる。この場合は、ネックラインである92.275円まで下値余地が生じる事になる。その意味では、カナダ/円相場は重要な分岐点に差し掛かっていると言えそうだ。そうした中、9月は、上旬にカナダ中銀(BOC)の金融政策発表や米国とカナダの8月雇用統計など、重要イベントが並んでおり、これらを消化した時点で、カナダ/円相場の方向性についてはある程度の決着が付く事になるかもしれない。これまで、中立からややハト派と見られてきたBOCの政策スタンスに変化があるのか、特に注目されよう。もっとも、8月にも見られたように、カナダ/円は、主要国の株価動向＝投資家のリスク許容度に左右されやすい面を持つ。中でも、史上最高値圏に戻してきたNYダウ平均は9月に下落しやすいというアノマリーがあるだけに、その動向には注意が必要だろう。(神田)

(予想レンジ: 94.200円～97.500円)